



マップの管理

- [マップの管理 \(1 ページ\)](#)

マップの管理

Cisco DNA Spaces : 検出と検索 へのマップのアップロード

最初の設定タスクの 1 つは、Cisco Prime Infrastructure からエクスポートされたマップを Cisco DNA Spaces : 検出と検索 にアップロードすることです。通常、マップデータには、フロアイメージ、フロア座標、アクセスポイント (AP)、キャリブレーションデータ、およびフロア上の AP に関する詳細が含まれます。

始める前に

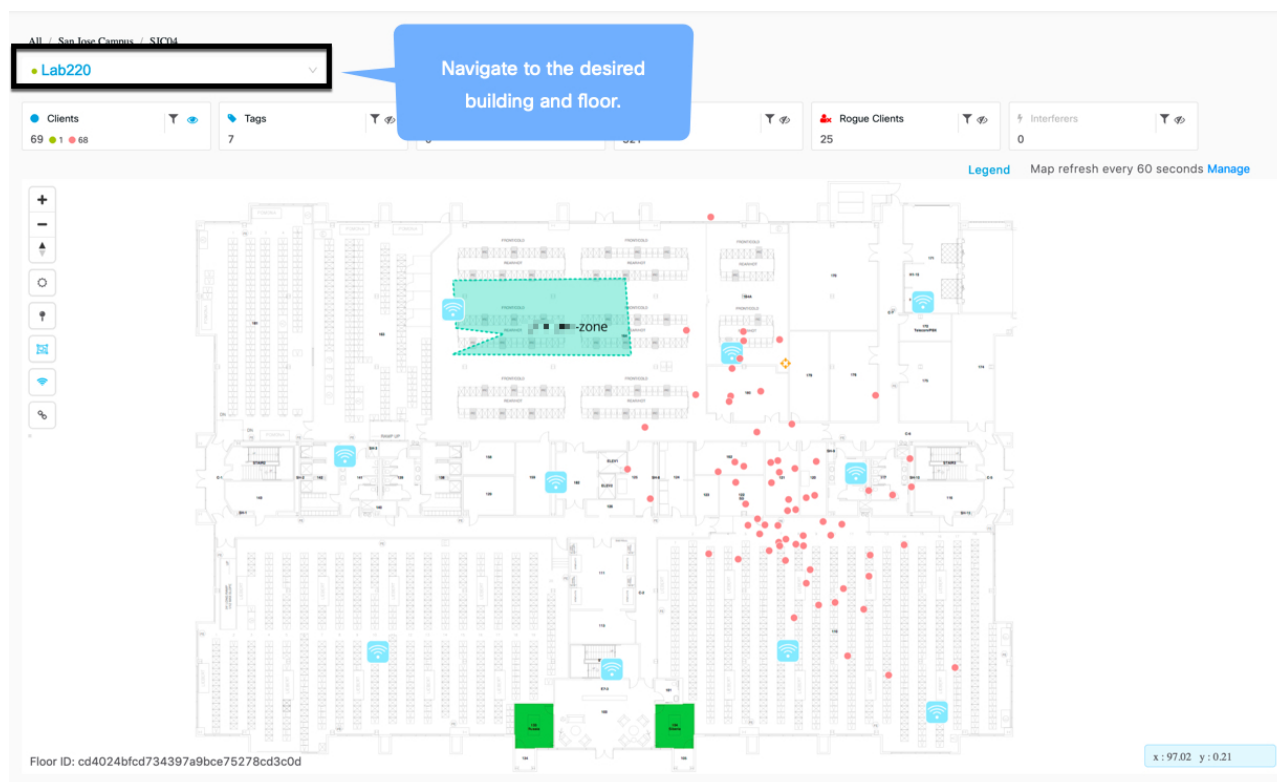
Cisco DNA Spaces : 検出と検索 が Cisco DNA Spaces を介して起動されると、マップは Cisco CMX テザリングを通じて自動的に同期されます。

-
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces : 検出と検索にログインします。
 - ステップ 2** 左側のナビゲーションペインで、[Maps] をクリックし、[Upload] ボタンをクリックします。
 - ステップ 3** マップが保存されている場所 (コンピュータ上) を検索します。以前 Cisco Prime InfrastructureCisco Prime Infrastructure からエクスポートしたマップを選択します。
 - ステップ 4** マップが正常にアップロードされたかどうかを確認します。
-

Cisco DNA Spaces : 検出と検索 でのマップの表示

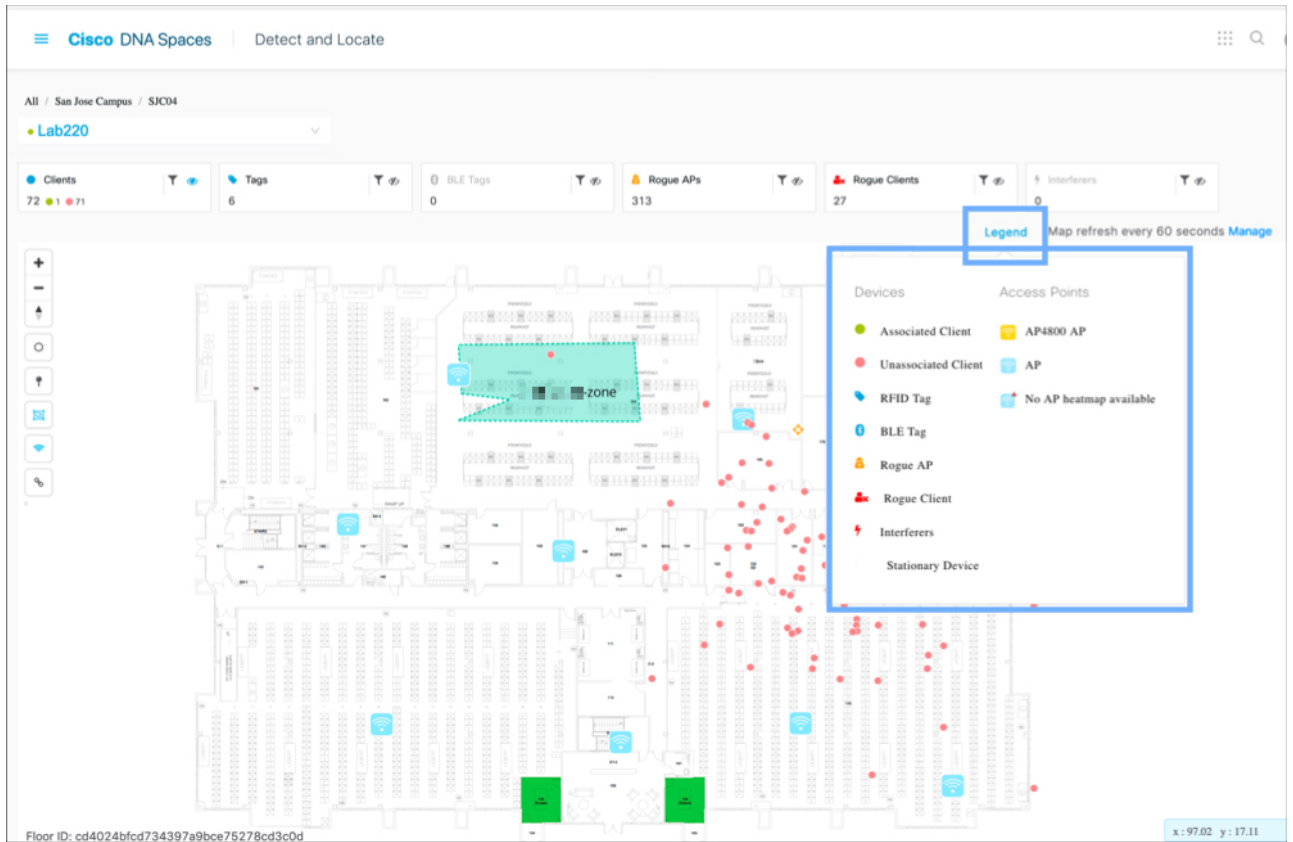
- ステップ 1** Cisco DNA Spaces : 検出と検索 ダッシュボードから、ドロップダウンリストを使用して、目的のキャンパス、ビル、およびフロアに移動します。

図 1: Cisco DNA Spaces : 検出と検索 ダッシュボード



ステップ2 [Legend] をクリックして、マップ上のさまざまなマーキングを確認します。




図 2: 凡例




ステップ 3 画面トップのツールバーから、任意の組み合わせのアイコンを選択して、デバイスのビューをカスタマイズします。

図 3: [Dashboard]: 合計数ツールバー



- [Clients] : すべてのクライアントデバイス（接続済みで検出済み）。
- 赤色の点  は、プロービングのクライアントを示します。クリックすると、クライアントに関する詳細が表示されます。
- 番号  に関連付けられた点は、プロービングクライアントのクラスターを示します。クリックすると、そのクラスター内のすべてのクライアントの詳細が表示されます。ズームインしてクライアントを個別に表示することもできます。
- 緑色の点  は、接続されているクライアントを示します。クリックすると、クライアントの詳細が表示されます。


- [Rogue Access Points] : Cisco CMX インフラストラクチャの一部ではない、または管理されていない AP。クリックすると、詳細が表示されます。
- [Rogue Clients] : 不正アクセスポイントに接続しているクライアント。
- [Interferers] : 無線周波数干渉を引き起こす可能性のあるデバイス。
- [Tags] : Wi-Fi タグに関連するベンダー固有の情報は、RAW 形式で表示されます。
- [BLE Tags] : トラックデバイスに接続された Bluetooth Low Energy タグ。

ステップ 4 (任意)  アイコンをクリックして、表示された項目をフィルタリングします。これらのフィルタは永続的であり、セッション全体で有効です。

ステップ 5 次のアイコンの任意の組み合わせを選択して、[zones]、[access points]、[tags]、[heat maps] などのダッシュボードの他の要素を有効または無効にします。

図 4 : [Dashboard] : 左側のツールバー



- [Zones]  : 特定のフロアのゾーンを表示または非表示にします。



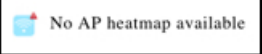
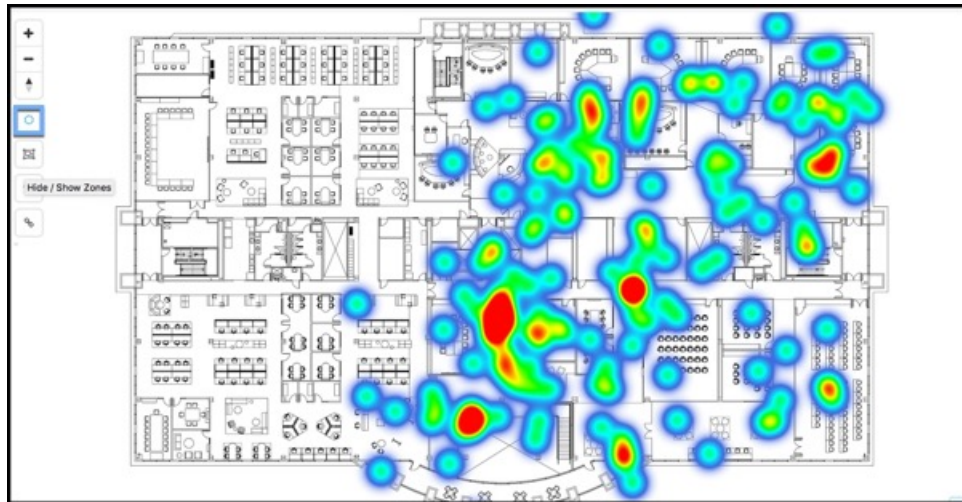
- [Access Point]  : 特定のフロアに展開されているすべての AP を表示または非表示にします。マップが検出と位置特定にアップロードされている場合、どの AP にデバイス位置 ( AP) があり、どの AP のデバイス位置に問題があり、トラブルシューティングが必要か ( No AP heatmap available) がマップに表示されます。
- [Heatmap] : さまざまなクライアントの動きをヒートマップとして表示します。

図 5: ヒートマップ



- [Clustering] : 近接し、重複している可能性のあるデバイスをグループ化するには、クラスタリングを有効にします。クラスタ化されたアイコンをクリックすると、別のウィンドウにデバイスのリストが表示されます。

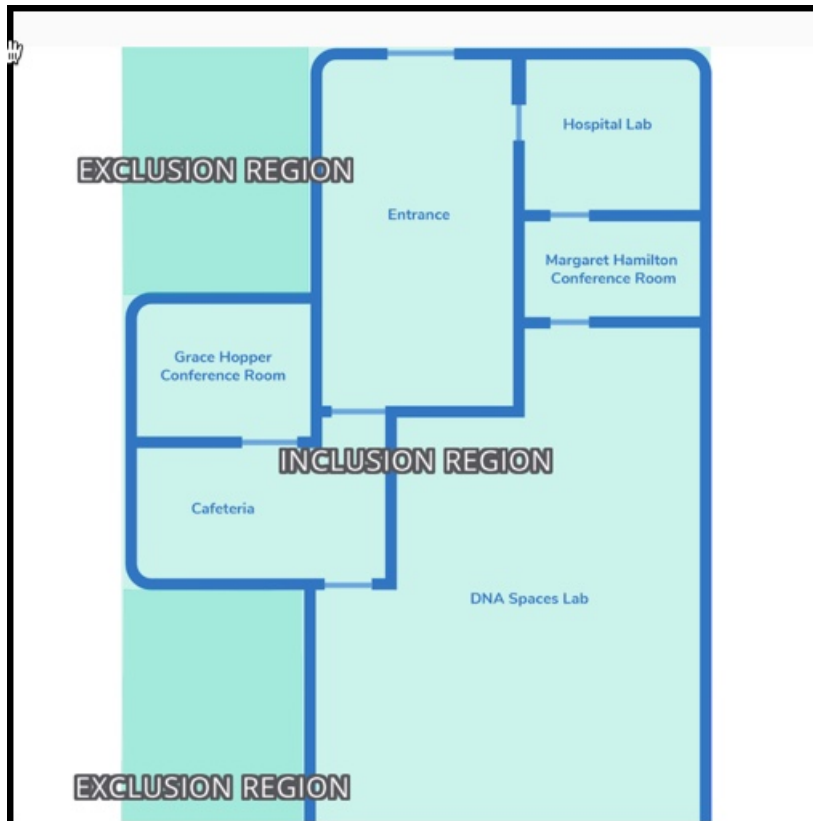
図 6: クラスタ

The screenshot shows the Cisco DNA Spaces interface. On the left, a floor plan map displays several clusters of devices represented by colored circles. A blue callout box points to a cluster with the text: "Click to clustered icon to see list of devices". On the right, the "List of Devices" table is displayed, showing 15 records. The table has columns for Mac Address, Device Location, Status, IP Address, and Coordinates.

Mac Address	Device Location	Status	IP Address	Coordinates
bc:e6:3f:00:00:47	Simulator-1-Campus0->Building0->Floor1	ASSOCIATED	10.0.0.71	X: 104.8, Y: 122.72
bc:e6:3f:00:00:6f	Simulator-1-Campus0->Building0->Floor1	ASSOCIATED	10.0.0.111	X: 127.03, Y: 147.66
bc:e6:3f:00:00:74	Simulator-1-Campus0->Building0->Floor1	ASSOCIATED	10.0.0.116	X: 121.52, Y: 142.03
bc:e6:3f:00:01:18	Simulator-1-Campus0->Building0->Floor1	ASSOCIATED	10.0.1.24	X: 124.35, Y: 143.75
bc:e6:3f:00:01:20	Simulator-1-Campus0->Building0->Floor1	ASSOCIATED	10.0.1.32	X: 115.95, Y: 136.86

- [Show/Hide Inclusion and Exclusion Regions] : 包含領域と除外領域の表示を有効にします。

図 7: 包含領域と除外領域の表示/非表示



- (注)
- フロアごとに1つの包含領域のみ設定可能です。
 - デバイストラッキングが不要なエリアには、フロアごとに複数の除外ゾーンを追加できます。

ゾーンの作成

左側のナビゲーションペインで、[Maps] をクリックし、ゾーンを作成する必要があるロケーションを検索します。左側のツールバーから [Create a Zone] アイコンをクリックし、ゾーン境界を作成するマップをクリックします。ダブルクリックして、ゾーンの作成を完了できます。ゾーンをマップに配置した後、ゾーンの名前を追加します。ゾーンを拡大して表示できます。

図 8: ゾーンの設定

